

令和6年度  
すくわくプログラム活動報告書  
(実施対象：1歳児クラス)

モニカ都立大園



テーマ

## 植物の探究

### 設定理由

4月から散歩先や園庭で植物に触れており、5月から8月にかけては夏野菜を植え、収穫して食べる経験もした子どもたち。その経験から植物はより身近なものとなり、観察したり、ちぎったり、香りを嗅いだり、水に浮かべたりして楽しむ姿が見られた。植物への興味は継続的にありながらも、それが「生きている」「大切」ということにはまだ繋がらない子もいるため、植物の探究を進めていく中で、植物に命があることに気付き、大切にすゝる気持ちを育みたい。

### 対象クラス

1歳児クラス・10名

### 活動の狙い

植物に共感的な関係性を育む

### キーワード

「伸びたね、どこから来たんだろう」

### 活動期間

令和6年11月～令和7年2月

### 活動回数

計5回

## 活動①

## 保育室で植物と向き合う

## 実施日

令和6年11月5日

## 準備物

保育室の観葉植物（6鉢と1瓶）

園庭の植物の葉・枝

白模造紙（2枚）

ライトテーブル（1台）

机（1台）

両面棚（1台）

クリップライト（1個）

## 環境構成

保育室で暗めの空間

1グループ子ども4～5人

保育者2～3人

## 活動① 保育室で植物と向き合う

R6.11.5



ローズマリーを指で挟み、下から上へと手を滑らし、香りを嗅いでみせる。その様子を見つめる子どもたち。「触っていいよ」と子どもに伝えると徐々に真似をし始めた。

繰り返す内に、Aが自分の手に付いた香りを擦り、香りを服に移していた。その姿を見た子どもたちは、自分の服、友だちの服へと香り移しを楽しみ始めた。あつという間に部屋の中は、ローズマリーの香りで包まれた。

「あなたの素敵な発見でお部屋中がいい香りでいっぱいになったわ」と言葉を掛けられ微笑むA。

香りを楽しんだ子どもたちは、ライトテーブルに葉を並べデザインをする。葉っぱとの対話。ちぎったり、そのまま載せたりと、一人ひとりの表現が光に浮かびあがった。

「次はどこに置く?」「きれいだね」と言葉に、小さくうなずき微笑んだり、「これはパパ、こっちは赤ちゃん」などと擬人化し物語る姿も見られた。

言葉で表さなくとも、大人の共感的なうなずきや、言葉かけによって共同構築へと繋がることを感じた。このように、植物との共感的な関係を育んでいけるよう、プロセスを大切にしていきたい。

## 活動②

## 保育室と園庭で植物と向き合う

## 実施日

令和6年12月2日

## 準備物

## &lt;保育室&gt;

保育室の根っこの植物（2瓶）  
 球根（4個） | 水耕栽培の球根（3個）  
 白模造紙（机のサイズ2枚）  
 黒画用紙（1枚） | ライトテーブル（1台）  
 机（3台） | クリップライト（1個）  
 クレヨン（赤、黄、緑、茶を数本ずつ）  
 落ち葉数枚 | じょうろ

## &lt;園庭&gt;

落ち葉 | 模造紙（1枚）

## 環境構成



## &lt;保育室&gt;

保育室で暗めの空間  
 保育室を半分に区切る（植物と向き合う  
 コーナーとおまごどコーナーをセット  
 アップ）  
 子ども7人に対し保育者5～6人

## &lt;園庭&gt;

保育室で遊んでいた落ち葉と模造紙を園  
 庭の机の上に置く

## 活動② 保育室と園庭で植物と向き合う

R6.12.2



球根の観察をした。

Bは一枚一枚ヒヤシンスの球根の皮を剥いている。保育者が「お洋服脱いでいるのね」と言葉かけると、Bは皮を剥いたヒヤシンスの球根に「お洋服。寒い」と言いながら、チューリップの球根の皮を被せ始めた。子ども自身が経験したことのある衣服の着脱・皮が剥ける球根。この2つに繋がりを持ち考えられるような言葉をかけていく。「つながり」を大事にしながら植物の成長に目を向けていけるように。

保育室でも使用していた白模造紙を園庭の作業台に置くと、Cが模造紙の上に葉を置いてデザインを始めた。  
 Cが握りしめた一枚の葉っぱ。「この葉っぱはどこから来たのだろう」と問いかけると、近くにあった木を見上げ、指差す。そして「ここから落ちてきたのかな」「ひらひらって下に落ちたの」と話すC。木に葉が茂り、やがてその葉は木から離れて地面に落ちるといふ植物の循環を感じていた。



今回は繋がりが・循環ということをねらいに活動を進めた。子どもたちは、日々の植物とのかかわりを通し、関係性を見出しているようだ。意図的に言葉をかけていくことで、それらのねらいがより深いものとなったように思う。

## 活動③

枯れ木を投影し  
庭園での記憶を呼び起こす

## 実施日

令和7年1月7日

## 準備物

落ち葉 | 白い布 (1枚)  
 プロジェクター (2台) | 暗幕 (3枚)  
 箱型筒状の白段ボール (3枚)  
 クリップライト (1個)

## 環境構成

正面、側面に木の映像を投影。下には  
 落ち葉を撒き箱型の物体も置いて映像  
 が物体にも映るようにする。



## 活動③ 枯れ木を投影し、庭園での記憶を呼び起こす

R7.1.7



園庭の枯れ木を投影し、床に落ち葉を撒いて活動をした。

保育者が「はっぱないね」と木を見ながら呟くと、「はっぱ、ない…」と言い、木を見上げる子どもたち。「はっぱ、どこにいったのかな」と問いかけると、足元の落ち葉を拾い、「はっぱ、つけた」と投影された木に重ね合わせてみたり、その葉をパッと手放し「ひらひらひら」と木から落ちゆく葉を再現したりしていた。また、影の凹凸ができるよう設置した箱の前では、それらを不思議そうに覗きこんだり、裏側に回ってみたり、動かしてみたりしてみる。さらには、箱に落ち葉をため込み、「お風呂。あたたかい」と表現する姿も。裸足で葉を踏む感触は心地よく、何度も足踏みをし、次第に寝転んで身体全体で落ち葉の感触を味わう様子も見られた。

子どもたちにとって身近な園庭の木。「はっぱ、ないね」という言葉を契機に投影空間に没入していった。記憶に残る、美しい時間を保障していく。そこから生まれる自然への新たな視点と可能性。空間の中で遊びこむことは、子どもたちの学びにおいて重要であり、そのためにも空間構築が大切なのだと感じた。

活動④

## スナックエンドウの成長を 観察する

実施日

令和7年2月21日

準備物

スナックエンドウの鉢植え（3個）  
スナックエンドウ以外の植物（4個）  
鏡（3枚） | 虫眼鏡（4個）  
白模造紙（1枚） | iPad（1台）  
クレヨン（緑6本、茶2本）  
クリップライト（2個）  
スナックエンドウ成長過程の写真

環境構成

鏡、虫眼鏡で観察するコーナー、  
描くコーナー、写真を見て振り返る  
コーナー、影や反射を感じるコーナー  
を作った。

活動④ スナックエンドウの成長を観察する

R7.2.21



11月に種を植え、育ててきたスナックエンドウ。鏡、虫眼鏡、これまでの成長過程を記録した写真等を用いて様々な角度から観察をした。  
虫眼鏡を覗き、「(つるの)くるくるだ!」とつるの繊細さに驚き喜ぶ姿や、角度によって見える葉と見えない葉があることを知り、「葉っぱさんとかくれんぼしてるの」と様々な視点で対話する姿があった。  
また、種から少し発根した時期の写真と今のスナックエンドウを見比べると「おなじ」と相互を指差し話す。自分たちで植えたことを振り返り、「土のお布団掛けたんだよね」と保育者が言葉をかけると、「うん。寒いからね。私もお外行くときはジャケット着るから一緒」と話す子もいた。

外部の環境に強く共感したクラスルーム。大きな窓と差し込む日の光、目に見える自然の風景には、透明性と明るさがあり、開放的で好奇心を誘う場となっている。子どもたちは心を通して植物との対話を繰り返していたように思う。

## 活動⑤

# デジタルツールを使って 植物と向き合う

### 実施日

令和7年2月25日

### 準備物

#### <ホール>

プロジェクター（2台）  
スクリーン（1台） | 白い布（1枚）  
落ち葉

#### <保育室>

ライトテーブル（2台） | 机（1台）  
スナックエンドウの鉢植え（1個）  
水耕栽培のヒヤシンス（1個）

### 環境構成

#### <ホール>

行き慣れた公園の木々の映像を正面、側面と立体的に投影し、床には落ち葉を撒いておく。

#### <保育室>

ライトテーブルに置いたものがよく見えるよう、照明は普段よりも暗めの設定にし、2人ずつ観察する。

## ▼ドキュメンテーション

### 活動⑤ デジタルツールを使って植物と向き合う

R7.2.25



スクリーンとプロジェクター2台を用いて立体的に木を投影した。自分たちの影がくっきりと映ったスクリーン。「あっ、これは誰？」と保育者が問いかけると、スクリーンの中のもう一人の自分の動きと自分の動きとが対になっていることに気が付いた。様々な形の落ち葉を手に取り動かしてみる。自分の立つ位置によって変わる影の大きさにも「大きくなった！」と声をあげ、デジタルの世界を存分に味わっていた。



「よく見たら細かい線が見えるよ」と保育者が呟くと、顔を近づけて葉を覗き込むD。「ここ？ここも？」と葉脈を指さして保育者に問いかける。ライトテーブルに乗せることで浮き上がる葉の模様の多さに驚く。そして指でなぞる姿があった。球根から生えた根はライトテーブルの上に乗せると少し透き通って見える。「なんか違う？変わった？」と保育者に問いかけていた。

子どもたちとデジタル。現実と想像の世界を行ったり来たり、見えなかった新たな世界と出会ったりする。手を動かし行き来する子どもたちの姿から、新たな可能性の広がりを感じた。

## 使用物

植物プランター（スナックエンドウ、ヒヤシンス、ローズマリーなど）  
じょうろ | 落ち葉 | 枝 | 白模造紙（5枚） | 黒模造紙（1枚） | ライトテーブル（2台）  
机（3台） | クリップライト（2個） | クレヨン（4セット） | 白い布（1枚）  
暗幕（3枚） | 段ボール（3枚） | 鏡（3枚） | 虫眼鏡（4つ） | iPad（1台）  
プロジェクター（2台） | スクリーン（1台）

## テーマ：植物の探究

# 全体の振り返り

全5回のプロジェクト活動、それに伴い環境を再現したクラスルームの日々の生活を経て、徐々に心を通して植物と関わる姿が見られるようになった。また、子どもたちが自ら植物に興味を持ち優しく接したり、不思議に思ったことや喜ばしい発見を積極的に保育者や友だちに共有する姿も見られるようになった。

そのような姿に、保育者が表情で、言葉で共感することの大切さを学んだ。そして子どもたちの興味や関心を把握し、子どもたちの学びの空間を構築できるよう職員同士で語り合い、アイデアを出し合い、さまざまな視点を学び合うことの楽しさも感じた。

今後も植物との共感的な関係性を大切にしながら、日々の保育（暮らし）を丁寧に継続していきたい。植物に対する優しさが、今後も育まれていってほしいという願いを込めて。

終



**株式会社モニカ**

〒105-0004  
東京都港区新橋2-12-16 明和ビル7階  
TEL:03-6661-2466  
FAX:03-6661-2467

**モニカ都立大園**

〒152-0034  
東京都目黒区緑が丘1-2-14  
TEL:03-5726-9145  
FAX:03-5726-9146